

力者に逆らわず、しかし決して服従する訳でもなく強くしたたかに生きていく知恵を身につけているのかもしれませんが。中国人と日本人は外見はよく似ているけれど考え方は似ていません。あの大地に、激烈な競争社会に生きている「たくましさ」「強さ」「したたかさ」は現代の日本人にはありません。違いを知り相手を認め、受け入れることが大切だと学びました。当時の人々は豊かさへの憧れと中華思想から「いつか日本に追いつく」「日本を追い越す」という目標を明確に持っていました。そのことを脅威に感じましたが、十数年経って今本当に中国の勢いに圧され続ける日本があります。日本人はこれからどんな夢や目標を持っていくのか真剣に考えたいと思いました。

中国の殆どの家庭では、夫婦どちらも共働きで子供は生後数ヶ月から保育所で預かってくれます。当時も一人っ子政策でした。「計画出産をしましょう」などという大きな文字が町の看板に掲げられていて驚きました。双子は特例なので双子を生む夫婦も多くありました。みんな子供は多く欲しいのですが国の決まりだから仕方がないと言ってあきらめていました。農村部では一人っ子政策が徹底されておらず子供は宝だし、働き手になるからと何人か生んでる家庭もありました。中国では妻の方が収入が高いというケースも多く、結婚しても財布は別々、家事も夫婦で分担しますし、女性がイニシアチブを握っている家庭が多くありました。女性は強かったです。考え方も主張もはっきりするし、様々の分野で社会進出していました。男の人とも大声でケンカする。男女が殴り合いのケンカをするのを街で見た時はショックでした。中国の女性にはあまり「控えめ」とか「恥じらい」とかいった感覚は見られませんでした。中国人の男性は「日本の女性は優しくていいですね。日本の女性と結婚したい」という声を多く聞きました。でも現在はそのような日本の女性像もだいぶかけ離れてきたと思います。中国ではお年寄りや目上の人に敬意を示し思いやりを持って接していました。日本の若者にはない姿でした。

中国というあの巨大な国が急速に発展を目指すということは、いろいろな分野でひずみが出るだろうと感じました。全体主義の中で一人ひとりの人権が無視されていたり、公平公正の政治ではなかったり、弱者が切り捨てられていたり、工業化の陰で農業がなおざりにされていたり、急激なインフレ、都市と地方の格差、環境破壊の問題、少数民族の問題など光の部分よりも陰の部分が見えました。13億の人間を飢えさせずに食べさせていくこと、働く場を与えること、暴動など起きないように統一を図っていくこと、なかなか大変だと思いました。中国とこれからどうつき合っていくか難しい局面もありますが、しかしアジアの大国である中国とは友好親善に努めていく事が必至です。特に国と国の関係よりもむしろ民間やNPOや個人対個人の絆をどれだけ深めていけるか考えていきたいと思っています。

1月28日例会： 新年会 於三条ロイヤルホテル18:30～

2月4日例会： 卓話「最近のロータリー」パストガバナー藤田説量様

2月11日例会： 休会（建国記念の日）

2月18日例会： 「世界理解月間」卓話 外山工業 マーク・ドノバー様

2月25日例会： 卓話

3月4日例会： 新入会員卓話 米山キクエ会員

Sow the Seeds of Love



会長／梨木建夫
幹事／五十嵐 茂
SAA／佐藤弘志

三条北ロータリークラブ週報

慈愛の種を 播きましょう

例会日	2003. 1. 21
累計	No 787
当年	No 28

国際ロータリー会長 ビチャイ・ラタクル 第2560地区ガバナー 佐野 孝
ホームページ <http://www2.next.ne.jp/2560sano/>

例会日／火曜日 12:30～13:30

例会場／三条ロイヤルホテル

事務局／三条市西四日町3-15-34 ヒューマン・ハーバー内

☎34-8111 FAX34-8114
☎35-7160 FAX33-8972

メールアドレス north@sanjo-nrc.org ホームページ <http://www.sanjo-nrc.org>

行 事： 卓話「私が見た中国」菊田真紀子様

出 席： 本日の出席 60名中 43名

先々週の出席率 60名中 50名 83.33%（前年同期75.81%）

先週のメイクアップ： 1月15日三条RCへ 青木省一さん、西村 護さん、石川勝行さん

山中 正さん、中條耕二さん、小林幹扶さん

山上茂夫さん、笹原壮玄さん、羽賀一夫さん

16日燕RCへ 山中 正さん、山口 龍二さん

20日三条南RCへ 梨木清一さん

ゲ ス ト： 菊田真紀子様

ビ ジ タ ー： 東京上野RCより 捧 永世さん

三条RCより 広岡豊作さん

会長挨拶： 梨木 建夫



■ 今「子」育ての真最中です。いや正しい言い方は「孫」育ての真最中という事です。週の内数日間3歳になる男の子を預かって、大おばあちゃんと私と2人で格闘奮戦中です。

子育ては一つの命を預かるわけですから、母も父も又、叔父も祖母も家族全員で必死で取り組まなければならない一大事業です。訳もわからずに夜中に泣いたりする子供と毎日接するわけですから、自分自身が理解のない大人のままでは到底できるものではありません。例えば母親がいない、自分一人の時に子供に泣き出されたら全く困ってしま

います。この子はいったいどうして欲しいんだろうとじっくり観察するところから子育てが始まる訳です。つまり相手の身になって考えなければ出来ないことなのです。子供の成長と共に知らず知らずに自分自身も勉強させられ、この年になっても孫と一緒に成長できるのかなあとと思います。

子育てというのは子供を育てると同時に自分自身も育っていくことでもあります。長い一生のうち何年かの孫との成長期間は他では決して味わえない素晴らしい時間です。子供の目の位置において、子供とともにゆったりと毎日を楽しみながら、子育てにいや孫育てに励んでおります。孫の発見は新鮮な自分の発見にもなります。「子ども叱るな来た道や、年寄り叱るな行く道や」という言葉があります。いましばらくはおおらかな気持ちで孫とつき合いながら頑張りたいと思います。

幹 事 報 告： 五十嵐幹事

・三条市障害児研究協議会より 平成14年度反省・懇親会のご案内

日時 平成15年2月28日（金）午後5時30分～

会場 三条ベルナール

・今年度下半期会費納入をお忘れの方は早急をお願いします。

ニコニコボックス：	7日現在累計	649,000円
-----------	--------	----------

捧 永 世 君	（東京上野RC）石丸会員、山崎会員、昨晚はお世話になりました。
梨木建夫君	愛するまき子ちゃん、卓話御苦勞様です。楽しみにして居ります。大ファンより。
五十嵐茂君	〃
佐藤弘志君	〃
今井克義君	貴の花の引退、まことに残念です。能力がなくなったのにまだ社長にしがみついている皆様、見習ったらいかがですか。
斉藤興一君	わたぼうしみたいに積る雪の樹花
梨本清一君	鹿児島最南端、東シナ海に突き出た開聞岳に登って来ました。黄色一面の菜ノ花畑が雪国の者にはまぶしく目にしました。
中條耕二君	菊田まき子に10年前頃に中国語通訳に助けられたことを思い出しております。感謝しております。
丸山勝君	ボックスに協力
白倉昌夫君	おそいあいさつですが、明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくよろしくお願い申し上げます。
淵岡茂君	あけましておめでとうございます。相変らずの旅ガラスで出席率が悪いですが、宜しくお願いします。
山 中 正 君	今年初めての例会出席です。今年もよろしくお願いいたします。そして、本日、菊田さんおいで下さいましてありがとうございます。
今 村 泉 君	菊田まき子様、心から歓迎いたします。楽しく元気が出る話を期待いたします。
阿部勝子君	菊田様、今日は有難度ございます。宜しくお願い致します。
大野新吉君	菊田まき子さん本日のご来場そして卓話ありがとうございます。益々お元気で張り切っておられる姿を拝見しますと私も勇気がわいて来ます。
山 崎 勲 君	

豊かになれたかということに関心を寄せ熱心に聞いてきました。日本に憧れ、日本に行きたい、力になって欲しいと何人もの学生に頼まれました。一旦何かトラブルが発生したとき、中国人は自分の非をなかなか認めようとしません。謝ることがキライというか絶対に謝りたくないという姿勢で感情がこじれることも時々ありました。この様な時、自分たちに謝れと言うならば日本人は中国人に対してもっと謝るべきことがあるだろうと開き直ってしまうのでとても驚きました。また、街に至る所、あるいは学校や職場でも国の指針や国民全員で取り組む課題やスローガンを掲げたり、統一の思想教育が行われていることに違和感を覚えました。貧富の格差は今ほどではありませんが、それでも高級車を乗り、高級マンションに日本製の電化製品を備えて豊かに暮らしている官僚がいる一方で農村部では文盲の人も多く貧しい暮らしにあえいでいる農民がたくさんいて気の毒に思うことが多くありました。働いても働いても貧しさは先祖の代から子孫の代まで続き、日本なら自由に転職したり引っ越したりできるけれど、そのような自由が与えられておらず一生貧しい暮らしから抜け出すことのできない人々がたくさんいました。私は日本に生まれて良かったなと思うことがたくさんありました。授業の中で外国人も一緒にスピーチコンテストや自分の考えを発表する機会がよくありました。日本人留学生は成績がいいのにも関わらず、自分の意見を発表しあるいは議論すると言うことは全く苦手でした。外国人はみんな生き生きと楽しんでやるのを日本人はみんな嫌がり手を挙げないので不思議がられました。自国の政治や文化や歴史について自分なりの認識をきちんと述べる事ができない日本人に初めて気づかされ恥ずかしくなりました。教科書の中で暗記したことを思い出して述べるだけでは他の国の人により深く日本という国を理解してもらう事が出来ません。真の国際人とはまず自分の国、自分の住む地域のこと、自分のルーツを探究していなければならないのだとその時初めて気づきました。

1989年の天安門事件はショッキングな出来事でした。北京での学生運動がやがて各地に広がり、私達のハルビンでも学生達がデモ行進し街の交通機関がストップしました。断食をして中央政府に抗議する学生が日に日に増え大学の壁には手書きの壁新聞が貼られました。学生さん達はみんな真剣で怖いくらいでした。テレビの放送では学生が人民解放軍の人に暴力を振るったという、ニュースが流れ、軍隊から死者が出たということでしたが、学生の死亡者は伝えられませんでした。情報が交錯し飛行場が閉鎖されるとか、日本人の安全は確保できないとか様々な情報に何を信じたらいのかと心配でした。日本の家族から届く手紙が封を開けられて届いたり、荷物の検査が厳しくなったりし始めました。何時どの様な形で落ち着くのか見通しがないのでとりあえず荷物を纏めて帰国しました。帰国したら中国での報道と日本での報道の内容が違うので驚きました。テレビのコメンテーターが中国政府や軍の批判をしているので驚きました。自由に批評できることが不思議でした。中国では個々に好き勝手なことを言っていますが、公で政府の対応を批判したりすることはなかったからです。両親は大反対しましたが、2ヶ月後にまた中国に戻りました。他の留学生もみな戻ってきました。2ヶ月前の騒動がまるで何もなかったように誰もあの事件がどのように終結したのか触れようとせず完全にタブーになっていました。中国では長い歴史の中で絶えず動乱が繰り返されてきました。民族間の弾圧もありました。だから慣れているのかもしれませんが。その時々の権